

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予報第16号を発表したので送付します。

---

令和4年度農作物病害虫発生予報第16号

令和5年3月27日  
徳島県

## I. 果樹 カンキツ

そうか病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が18.8%、発病度が0.1と、平年(18.2%, 0.2)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原菌は病枝や病葉で越冬し、翌年の新梢発生時から6月頃まで新葉に雨滴によって伝染する。
- (2) 薬剤防除適期は4月上中旬の発芽直後(芽の長さ1cm程度)と5月中下旬の落花期である。
- (3) 春葉での感染が多いと果実の発病を抑えることは難しい。

かいよう病(スダチ)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬のスダチでの巡回調査では、旧葉での発生圃場率が100%、発病度が10.7と、平年(97.9%, 7.5)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病原細菌は水滴によって運ばれ、気孔、傷口から組織内に侵入する。風速6～8m以上の強風を伴う場合、侵入が助長されるので、防風林や防風ネット等を設置し、防風対策を行う。
- (2) 前年の夏秋梢に発生した病斑が特に翌春の伝染源となるため、被害枝はせん定の際に、徹底して除去する。
- (3) 旧葉に発病が認められる場合には、発芽前の3月下旬に薬剤を散布する。

## ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が81.3%と、平年(67.0%)に比べてやや高いが、寄生葉率は11.6%と、平年(9.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 12月に薬剤防除を実施していない圃場では、3月中にマシン油乳剤を散布する。12月または3月に丁寧に散布すれば、初夏まで抑制効果がある。
- (2) マシン油乳剤とボルドー液は14日以上間隔をあげ、散布する。

## ナシ

### 黒星病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.5%、芽基部発病芽率が0.0%)。
- (2) 令和4年9月第3半旬及び10月第3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。
- (3) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が18.3%、発病度が1.2)。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (4) 窒素肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

#### 灰色かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.4%、発病葉率が0.5%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.0%、発病度が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (11月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が75.0%と、平年(55.5%)に比べてやや高く、寄生葉率は18.9%と、平年(4.7%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.8%、発病果

率が 0.3%)

(2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## うどんこ病

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病葉率は0.2%と、平年(10.2%、0.6%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## すすかび病

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(55.7%)並の発生であるが、発病葉率は3.7%と、平年(9.0%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

(1)気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(3)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

(1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、寄生葉率が0.5%と、平年(6.0%、0.2%)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アザミウマ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が37.1%、寄生葉率が4.5%)。なお、果実では、発生圃場率が33.3%、被害果率が4.3%と、平年(21.7%、1.6%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

##### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

##### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%、寄生葉率が28.2%と、平年(36.4%、5.0%)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1)3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%と、平年(14.0%)並の発生であるが、寄生葉率は2.8%と、平年(0.7%)に比べてやや高い。
- (2)高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春キュウリ

##### べと病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%, 発病葉率が 3.4%と, 平年(56.4%, 12.1%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並みで, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等, 十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。
- (4) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので, 肥培管理に注意する。

## うどんこ病

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%, 発病葉率が 0.3%と, 平年(67.5%, 8.5%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並みで, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く除去し, 施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 褐斑病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%と, 平年(57.5%)に比べてやや低いが, 発病葉率は 6.6%と, 平年( 7.8%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並みで, 日照時間は平年並か少ないと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等, 十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は, 葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 灰色かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が 9.0%, 発病果

率が 0.3%)。

(2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。

(2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.1%、寄生葉率が0.5%)。

(2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アザミウマ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、寄生葉率が0.2%と、平年(38.5%、5.4%)に比べて低い。なお、果実では、発生圃場率が11.1%、被害果率が0.2%と、平年(6.9%、0.3%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## コナジラミ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.5%、寄生葉率が0.8%)。

(2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (2) 幼虫は葉裏に多く寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ハウレンソウ

### べと病

#### 1) 予報の内容

発生量   平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病度が0.2と、平年(19.3%, 1.7)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと多発しやすい。多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤は予防的に、下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 病原菌は被害株に付着越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するため、薬剤を予防的に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

## アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量   平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、1株当たり寄生虫数が0.0頭と、平年(47.5%, 0.2頭)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方气象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春イチゴ

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量   平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.4%、発病果率が0.2%)。
- (2) 高松地方气象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%と、平年(5.7%)並の発生であるが、発病葉率は0.9%と、平年(0.2%)に比べてやや高い。なお、果実では、発生圃場率が7.1%、発病果率が0.9%と、平年(3.6%, 0.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く除去し、施設外で処分する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が7.1%と、平年(23.6%)に比べて低いが、寄生株率は2.9%と、平年(3.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生葉率が2.0%と、平年(65.0%, 12.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### アザミウマ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 3月第4半旬の巡回調査では、発生圃場率が35.7%、寄生花率が3.1%と、平年(42.9%、3.3%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が3月23日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みで、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## III. その他

1) 水稻の育苗や甘藷の圃場準備等が始まり、農薬を使用する機会が多くなる時期である。農薬による危害、事故等を防ぐためにも、使用時には周辺環境に配慮した上で取り扱うとともに、使用残農薬、廃液等は適切に処分する。また、水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

2) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

### 発生量の表示

**発生程度：甚>多>中>少>無**

**発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。